

3.11 寄り添う姿一貫

平成と天皇

首相経験者に聞く③

菅直人氏



飯塚晋一撮影

かん・なおと 市民運動出身で、1980年に社民連から衆院初当選。新党さきがけを経て、96年の旧民主党結成に参加。2010年6月、民主党政権で2人目の首相となり、東日本大震災・福島第一原発事故の対応に当たった。70歳。

「首相在任中の2011年3月11日に東日本大震災が発生しました。6日後の3月17日、藤井裕久官房副長官が高齢を理由に辞任し、仙谷由人氏を後任とした。皇居での認証式では通常モーニングを着用するのが決まりだが、この時は宮内庁とも相談し、スーツ姿で臨んだ。天皇陛下もスーツで出席された。平服での認証式は史上初だったと聞いた」

「天皇陛下へのご説明は内奏のために皇居を訪れた時だけでなく、閣僚の認証式などの前にも行った。私からは状況を把握しにくい原発事故を中心に、自分の知り得る情報を時間の許す限り詳しくご説明した。陛下は震災と原発事故について非常に心配されており、

「天皇陛下へのご説明は予定の時間を超えても熱心に聞いて下さった。陛下のご質問からは、地震や津波、原発事故の被害について、一貫して国民の皆さんの苦勞に寄り添おうとする姿勢が感じられた」

「震災後、天皇、皇后両陛下の避難についても検討してまいりましたか。」



3・11と天皇陛下

東日本大震災の発生から5日後の2011年3月16日、天皇陛下は国民へのビデオメッセージを発表。「皆が相携え、いたわり合って、この不幸な時期を乗り越えることを衷心より願っています」などと語りかけた。計画停電にあわせ、お住まいの皇居・御所でも自主的に節電。同年4月からは皇后陛下とともに被災地訪問を始めた。

「うかつには口にできないことで、首相として検討を指示したことはない。だが、原発事故が危機的状況にあった初期の段階では、最悪のシナリオの一端として、皇室に避難していたかどうかもあるかもしれないと頭の中では考えていた」

「天皇、皇后両陛下は11年4月、3・11の被災地訪問を始めました。」

「天皇陛下は被災地訪問のほか、太平洋戦争の激戦地への慰霊の旅も続けてこられた。不幸な出来事に遭った国民を慰め、元気づけるのが一番の役割と考えておられるのだと思う」

「いまの陛下が国民統合の象徴としての新たな天皇像をつくった、と言ってもいいのではないかと。新憲法の下で即位した最初の天皇として、象徴のあるべき姿を考え、強い使命感で務めを果たしてこられた。昨夏のビデオメッセージで、全身全霊で務めが果たせなくなる前に退位したいとの意向をにじませたのも使命感の裏返しだろう。その姿があったからこそ、国民にも深く受け入れられた」

「首相になると、天皇、皇后両陛下と食事をする機会もありますね。」

「首相に就任して間もなくと辞めた後の2回、夫婦

で皇居に招かれ、両陛下とお食事した。妻の伸子が、皇居内の養蚕所で飼われている純国産のカイコ「小石丸」を話題にすると、皇后陛下は実物を持って来て下さり、とても楽しそうにお話しされた。天皇は田植えをし、皇后はカイコを飼うことが伝統的に大事にされている。日本の庶民の生活の「象徴」的な部分も、皇室の中で受け継がれているのだと印象深かった」

「首相を務めて、皇室観は変わりましたか。」

「天皇陛下と美智子さまのご結婚で、『ミッチーブーム』が起きたのは中学生の頃。普及し始めていたテレビを見ながら、おめでたいことだと喜んだ。皇室には自然な敬愛を抱いてきたが、陛下の象徴としての責任感を間近に感じ、尊敬の念がいっそう深まった」

(聞き手・二階堂友紀)